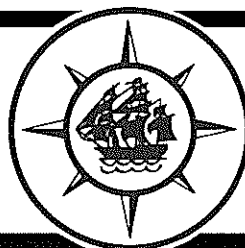


# Operation Raleigh News



## Operation Raleigh



### No. 17

昭和61年(1986)2月5日(水)  
毎月1回発行

●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会  
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号  
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で制作されたものです。

### 写真特報

## ボリビア・チリ北部を撮る

写真家 ルーシー・ホーン (英国フリー・ジャーナリスト)

写真を主体にしたフリー・ジャーナリストとして、ORのボリビア・フェイズおよびチリ・フェイズ取材したルーシー・ホーンさん(英国ケント州出身、ニューヨーク大学で1年学んだ後、写真家として独立、24歳)の取材写真がこのほどORニュース編集部に届きました。ホーンさんはボリビア、チリ北部のフェイズ取材した後、チリ南部フェイズに出発した日本代表の片岡さんら5人と入れかわりで来日したもので、毎日新聞や東京ジャーナル(英字誌)にも寄稿しています。ホーンさんが撮影した多数の写真のなかでOR活動の様子を撮ったものを中心にご紹介しましょう。



▲撮影者ホーンさんとチリの女の子



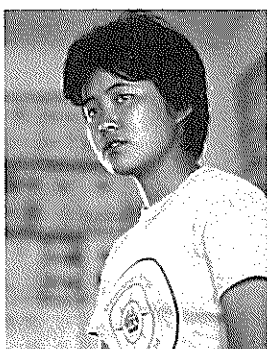
▲ボリビア・フェイズでがんばりました菊地孝範君



▲インディオの女性と子供(チリ)



▲イモの一種「ユカ」を掘る(ボリビア・アンボロ国立公園)



▲新保陽子さん(ボリビア)



▲サンチャゴのTV局もやってきた(チリ)



◀いずれもボリビア・フェイズ(アンボロ国立公園)

# パプアニューギニア 高地探検トレーニングも

# パプアニューギニア

パプアニューギニアおよびオーストラリア北部での活動計画に関するジョイニング・インストラクション(OR参加青年への指示書)がこのほどOR英国本部から送りれてきましたので、その翻訳の一部をご紹介します。

帯のマングローブなどの生育地で、はちゅう類や両生類を調査する。

### ■オオトカゲの調査

世界有数の大きさを誇るアートレリアトカゲはマシングラ村で見ることが出来る。このトカゲの撮影や調査などを実施する。

### ●冒険活動●

### ■探検トレーニング

地元のOR委員ボブ・ウツの指導のもと、ポートモレスビーの北部にある約4,000m級の高地で探検トレーニングを行なう。

## パプアニューギニア・フェイス

### ●概略日程●

- 4月1日 リーダー、パプアニューギニア入り
- 14日 第1陣現地入り
- 30日 主軸の英国隊現地へ出発
- 5月1日 ポートモレスビーで順応
- ~4日 訓練の後、西部へ出発
- 26日 プロジェクト地移動
- 6月15日 再度プロジェクト地移動
- 30日 全員ポートモレスビーへ移動
- 7月1日 オーエン・スタンレイ山
- ~30日 脈で探検訓練
- 31日 ベンチャラー帰国

### ●奉仕活動●

### ■竹製の小屋づくり

マシングラで現地の人々の助けを借りて竹製の小屋をつくる。

### ■灌がい作業

水道ポンプと基本的な灌がいシステムをマシングラとバリモ地区で設置する。

### ■教育施設、応急手当所づくり

西部の村で現地の人々とともに、学校の教室や応急手当所の修理、新築作業を行なう。

### ■職業センターでの手伝い

職業センターで機械操作の初歩的指導と修理の手伝い。

### ■医療奉仕

カトリック団体の医療チームに参加し、過疎村の医療活動の手伝い。

### ■白内障手術の手伝い

アメリカの眼科専門家チームの白内障手術奉仕活動の手伝い。この組織はSEE(目の手術・手当てを行なう国際遠征隊)といい、ORの活動と協力しているもので、南米でも同様のプロジェクトが行なわれた。

### ●科学活動●

### ■マシングラでの伝統的農業の調査

パプアニューギニアの伝統農業について、実際に農作業に参加しながら現在の作物、管理方法、土壌の状態などを調査する。農夫と話したり、

植物見本の収集、土壌見本の収集などが主な作業である。この問題に関してはランドサットによる撮影調査も並行して行なわれる。

### ■熱帯雨林の調査

ORの主要プロジェクトのひとつに熱帯雨林地域の保存に関する研究がある。パプアニューギニアでもこのテーマに沿った調査研究を実施。

### ■はちゅう類・両生類の調査

ポートモレスビーより西、低湿地



## オーストラリア北部

# 動物調査や川下り探検

## オーストラリア北部フェイス

### ●概略日程●

- 5月9日 ベンチャラーがダーウィンに到着後歓迎会
- 10日 ダーウィンに慣れるため
- ~11日 の休養
- 12日 プロジェクト地へ出発
- 31日 プロジェクト地移動
- 6月21日 再度プロジェクト地移動
- 7月11日 全員ダーウィンに集合
- 16日 ベンチャラー帰国

このオーストラリア北部(ノーザン・テリトリー)でのOR活動は8つの主要プロジェクトから成り立っています。全参加青年は期間中ひとり当たり3つのプロジェクトに参加する予定です。それぞれのプロジェクトはオーストラリアの博物館、国立公園、動物保護協会、土地管理局、大学などと協力して実施されます。

### ■パーシバル湖の古生代岩層調査

このプロジェクトは行程の最後の3週間に行なわれます。メルボルン博物館のトム・リッチ博士をチーフに岩層の探検調査活動として実施。パーシバル湖はグレートサンデー砂漠とギブソン砂漠の境にあります。

### ■クリスマス・クリークと

エル・クエストロの考古学調査  
オーストラリア西部博物館のピーター・ビンドン氏をチーフとして実施されます。ビンドン氏はアボリジニー社会に詳しい学者です。最初の2~3週間はクリスマス・クリークの砂漠の端で小山を発掘し、ディンゴ(オーストラリアの野生犬)の起源を調査します。最後の3週間は、エル・クエストロのペンテコステ川で地元の学術団体の人々とともに、岩の考古学的な研究をします。

### ■ドライスデール川の川下り

ドライスデール川の下流部は、いまだかつて定まったことがありませ

ん流にでは  
テシクと用で員  
ウヨどトラトす原験  
ク公スのなア  
をシ住別  
のり境べなとに

# チリ・フェイズ快調に展開中

チリ・フェイズに日本から参加中の片岡理智さん、加藤麻岐さん、鈴木昭君、高柳俊成君、吉田靖君の5人は現在チリ南部のプロジェクトに分散して活動中ですが、この地域での活動内容は次のようなものです。

〔サン・ラファエロ〕

●技術的にもよく訓練されたチームはサン・ラファエロからラゴ・ゼネラル・カレラへ向って東西にパタゴニア北部の万年雪を横断することを試みる。このような計画はこれまでになかったことである。

●氷河の登はんも予定されている。

●サン・ラファエロの氷河を見おろせるホテルに10mほどの水に浮く木製栈橋をつくる。またピクニック道や小さな建物をつくる作業も含まれている。

●英国の海洋学プロジェクトの作業で小さなボートに乗ってサンプル採集など海洋生態学の研究調査。

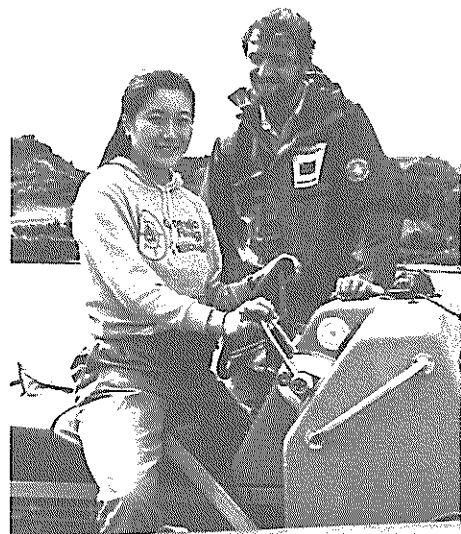
〔コヤイケ〕

●コヤイケの南20kmで岩石構造学の調査研究と岩石芸術(考古学的絵画)の再生作業がチリ国立博物館のハンス・ニーメヤー教授の援助で実施される。

●珍しいヒューメル鹿の調査をコナフ国立公園内で実施。

〔ピオピオ川〕

●現地人ガイドのもとでピオピオ川をいかだで下る。10~20日はかかる。ピオピオ川は水が白いことで世界に知られている。



▲片岡理智さん



▲加藤麻岐さん



▲鈴木昭君



▲高柳俊成君



▲吉田靖君

## これから出発する参加青年へ

### 先輩からのアドバイス

●原田亜紀子(ペルー・フェイズ)

①精神的に強くなっておくこと。

強靱な精神力とフレキシビリティが大切です。予定の変更など日常茶飯事。どんな境遇にも順応できることが大切です。

②いつも楽道家でいましょう。

どんなときでもスマイル。みんなを元気づけ、自分も元気。明るく元気にしていれば人間関係もOK。

③旺盛な好奇心をもちましょう。

好奇心があればあるほどORはオモシロイ。みんなとの連帯感も強

くなるものです。

●戸崎肇(バハマ・フェイズ)

①英語の勉強しっかりと。

出発まで時間の許す限り、英語の勉強をしておくこと。

②日本を説明できるか。

日本のことを多面的に説明できるよう自分の周囲を注意深く見直してみることに。

③サバイバル技術のマスター。

現地で役立つ技術、とくにサバイバルの知識を中心にマスターしておくこと。

## 参加指示書による主な活動計画を紹介します

## オーストラリア北部

この川は地勢の険しいところを

ているからです。この川を下る

カヌーといろいろな装置が必要

このプロジェクトのリーダー

ジョブ・リチャードソンです。

クトリア川と

ノグリー国立公園

ノグリー国立公園は、ノーザン

トリーのピクトリア川周辺に新

つくれました。このプロジェ

はビル・フリーランド博士のも

動物群の調査、カヌーなどを利

ヒースト・バインズ川の調査

オーストラリア北部環境保存委

支術部の協力も得られます。

ナースト島、メルビル島の

主民トウイ族との共同生活

ナースト島とメルビル島にはト

突という原住民が住んでおり、

コッパや観光客の影響をほとん

ずしていません。このプロジェ

オーストラリア北部開発部のフ

ク・ブライス氏をリーダーとし

トウイ族と生活をともにするもの

守猟や原始的な道具づくりなど

トウイ族との貴重な交流が体

きます。

カドウ国立公園

カドウ国立公園でのプロジェ

ク、動物調査、古代岩石調査、

開発計画、地質調査などをオー

トラリア国立公園と動物保護協会

ニー・プレス博士らの指導で行

ます。カカドウはオーストラリ

アでも最も未知の野生地です

ーネムランドのバッファロー

生物学プロジェクト

ーネムランドの南西部ブルマン

心とした少数精鋭の厳しいプロ

ジェクトです。アーネムランドは原

来保護地区で他人種が入るには特

許可が必要です。

クドネル地域の野生馬調査

クドネル地域はオーストラリア

央アリススプリングスの西にあ

ず。ここの野生馬がどれだけ環

うダメージを受けているかを調

査。このプロジェクトは水が少

昼夜の温度差が極めて大きい

うですから、とても厳しいもの

りそうです。

# 日本代表派遣青年のページ

## チリへ元気に出発

1984年次の最終組としてチリ・フェイズに参加中の5人(片岡理智さん、加藤麻岐さん、鈴木昭君、高柳俊成君、吉田靖君)は大みそか12月31日、22時30分成田空港発のJAL 423便で、アンカレッジ経由ロンドンに飛び立ちました。5人は期待と不安の入りまじった表情の中にも、やるだけの準備はしたという自信も見せながら元気いっぱい機上の人となりました。1月8日付の近況報告が加藤さんから届いていますのでご紹介しましょう。



▲成田空港出発ゲート前の5人

### Como estas?

日本を離れて10日。いまベースキャンプ COHAIQUE で休息の3日間を送っているところです。片岡さん、高柳君、吉田君はマリンカーサン・ラファエロのボート旅行、鈴木君はチリチコへ、そして私はサン・ラファ

エロでの科学調査に参加が決まりました。調査内容は海洋学的なことが多いので、大学での勉強が役立ちそうです。その後マリンカーへボート旅行をしますが、話では乗るボートが船室なし。吹える40度50度といわれている海を3週間。厳しい旅になりそうです。

英語はやはり大問題。皆に聞いてどうにか行動を理解しているところです。ヒアリングはまあまあですが話すのはどうしても言葉少なになってしまいます。スペイン語は勉強しておいた甲斐があり、買物やひとり歩きには困りません。

## 高柳君らボート旅行体験

マリンカーサン・ラファエロのフィヨルド地帯をボートで南下旅行した片岡、高柳、吉田組は1月28日苦闘の旅を終え、氷河地帯のサン・ラファエロに到着した模様です。このボート旅行は約2週間かかったもので、高柳俊成君はサン・ラファエロ到着後24枚にも及ぶ長編体験記を送ってきました。途中は雨が多く、食糧も少なく、相当厳しい旅だった様子で、高柳君の体験記も食べものの話が多く、椎名誠調のユーモアあふれる報告は、現地の実情が手にとるようにわかります。長文のため、紹介することはできませんが、3人組はサン・ラファエロで加藤麻岐さんに会ったということです。加藤さん

は高柳君たちと逆コースでボートの旅に出る予定で、高柳君たちからの情報で食糧をダンボール1箱余分に用意したそうです。北上する旅のため、逆風が多くて3週間位かかるとのことです。

高柳君たちは、サン・ラファエロでのさまざまなプロジェクトに参加する予定です。

## 岸田さん(メキシコ留学中)から便り

1984年次第6陣としてパナマ・フェイズに参加した岸田直子さん(早大)は帰国直後Uターンして現在メキシコ留学中ですが、あの大地震も体験。郵便事情が悪いようで昨年12月12日付の便りがこのほどORJC事務局に着きましたのでご紹介します。

みなさんいかがお過ごしですか。地震の後たくさんの方々から心配して手紙をいただきました。どうもありがとうございました。

あのとき以来日本からの郵便物や電話がなかなか届きません。多分こちらから出した手紙もあまり届いていないと思います。この国ではいまでもいろいろ問題がありますが、街はクリスマスの準備であふれています。

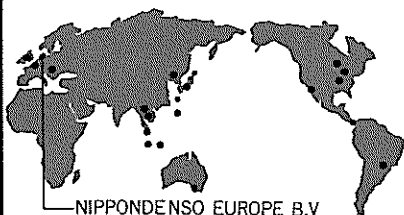
先週で大学の講義も終わり、1月20日までお休み。しばらく旅行に出るつもりです。ここは暖かい。朝晩は冷えますが昼中は半袖で過せます。日本は寒いでしょうね。

みなさん、楽しいクリスマスとよいお正月をお迎えください。

## デンソーワールドワイド・オペレーションNo.6

## オランダ

### ハンドメイドの国土。



「世界は神によってつくられたが、オランダだけはオランダ人によってつくられた」という言葉があります。海と大河に囲まれた低湿地を開拓し、国土を切りひろく努力は並大抵のことではなかったようです。そして、この地にあるのがニッポンデンソーヨーロッパ。欧州の各地にデンソー製品を供給する中心地です。ヨーロッパを駆け回るデンソーマンたちと開拓者としてのオランダ人には相通じる何かがあるように思われます。

**NIPPONDENSO EUROPE B.V**  
所在地: Gemeenschapspolderweg 26-28, 1382 Gr. Weesp, Netherlands.  
売上高: 3,846万ドル(71億5,400万円) 従業員数: 22人  
(1985年4月現在)



日本電装株式会社 〒448 刈谷市昭和町1-1 ☎0566-22-3311